

## 各火山の 7 月の活動解説

### 【北海道地方】

**雌阿寒岳** [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）] ←28 日に噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）から引上げ

13 日頃からポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震が増加し、17 日以降は徐々に減少していたが、26 日から再び増加している。

27 日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測及び 28 日に実施した現地調査では、ポンマチネシリ第 3・第 4 火口で地熱域が拡大し、96-1 火口では噴煙の勢いが増加しているのが認められた。遠望カメラによる観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口では 2010 年以降で比較すると、6 月頃から噴煙量がやや多くなっている。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性がある。

このように雌阿寒岳では火山活動は活発になっており、今後ごく小さな噴火が発生する可能性があることから、28 日 16 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げた。

ポンマチネシリ火口から約 500m の範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では火山灰や小さな噴石<sup>1)</sup>が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。



**十勝岳** [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

13 日から 14 日にかけて規模の小さな火山性地震が増加したが、その他のデータには特段の異常は認められなかった。

8 日に実施した現地調査では、62-2 火口内は噴煙のために地熱域を確認できなかったが、振子沢噴気孔群では引き続き地熱域の広がり観測され、強い刺激臭を伴った噴気が出ていた。

また、6 月の現地調査で確認した 62-2 火口南縁と振子沢噴気孔群の間の地熱を伴ったわずかな亀裂からも噴気が確認され、62-2 火口底では 6 月の現地調査で確認された湯だまりが拡大し、熱水の湧出と思われる湯面の盛り上がりが見られた。このように、62-2 火口とその周辺では熱活動が徐々に高まっていると考えられる。

十勝岳では、直ちに噴火に至る兆候は認められないが、ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

**樽前山** [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

3 日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施した。山頂溶岩ドーム周辺の噴気等の状況に大きな変化はなく、赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による観測では、地表面温度分布の状況に特段の変化はなかった。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（活火山であることに留意）]

大雪山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

倶多楽 [噴火予報（活火山であることに留意）]

有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

恵山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

### 【東北地方】

**秋田駒ヶ岳** [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

女岳では、2009 年から地熱域の拡大が認められている。22 日から 23 日にかけて実施した現地調査では、前回（2014 年 10 月 23 日から 24 日）と比較して、女岳南東火口縁外側及び北東

斜面から北斜面の間の一部で地熱域のわずかな拡大が認められた。

15 日に山体の北側で規模の小さな火山性地震が一時的に増加したが、その他の期間、地震は少ない状態で経過した。

地震活動は概ね低調で、地殻変動及び噴気活動にも大きな変化はみられないが、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### さおうざん**蔵王山**【噴火予報（活火山であることに留意）】

蔵王山では、6 月 17 日以降、地震回数はやや多い状態となっていたが、7 月 4 日からは少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。

GNSS<sup>3)</sup> 連続観測では、一部の基線で 2014 年 10 月以降わずかな膨張を示す地殻変動が観測されている。7 日から 9 日にかけて実施した GNSS<sup>3)</sup> 繰り返し観測では、2014 年と比較して御釜周辺の基線で伸びの変化がみられた。坊平の傾斜計<sup>4)</sup> では、南東上がりの変化が継続している。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### あづまやま**吾妻山**【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながらやや多い状態で経過し、今期間の地震回数は 154 回（前月 255 回）となった。火山性微動は観測されていない。

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

浄土平の傾斜計<sup>4)</sup> では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側（火口方向側）上りの変動が継続していたが、2015 年 7 月頃から停滞している。

GNSS<sup>3)</sup> 連続観測では、2014 年 9 月頃から一切いっさい経山南山腹観測点が関係する基線で緩やかな変化がみられていたが、2015 年 6 月頃から停滞している。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014 年 12 月頃から一部の GNSS<sup>3)</sup> 基線で、山体の膨張を示す地殻変動がみられる。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>1)</sup>、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特

段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん**岩木山**【噴火予報（活火山であることに留意）】

ほっこうださん**八甲田山**【噴火予報（活火山であることに留意）】

あきたやけやま**秋田焼山**【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

いわてさん**岩手山**【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

ちようかいさん**鳥海山**【噴火予報（活火山であることに留意）】

くりこまやま**栗駒山**【噴火予報（活火山であることに留意）】

あだたらやま**安達太良山**【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

ぼんだいさん**磐梯山**【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

### 【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

#### くまづしらねさん**草津白根山**【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加した。2014 年 8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過しているが、2015 年 1 月以降一時的な火山性地震の増加もみられている。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、2015 年 4 月頃より鈍化している。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられている。一方、全磁力観測による 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014 年 7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石<sup>1)</sup> が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

#### あさまやま**浅間山**【噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）】

浅間山では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていない。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は多い状態が続いている。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過し、山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度

の微弱な火映を引き続き観測しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過している。

GNSS<sup>3)</sup> 連続観測では、2009 年秋頃から縮みの傾向がみられていたが、一部の基線で 2015 年 5 月頃からわずかな伸びがみられる。傾斜計<sup>4)</sup> による地殻変動観測では、6 月上旬頃から山頂西側のやや深いところを膨張源とする緩やかな変化がみられており、7 月下旬頃からは鈍化しながらも継続している。光波測距観測による地殻変動観測では、6 月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものである可能性がある。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>1)</sup> に注意が必要である。

#### **みだがはら 弥陀ヶ原 [噴火予報 (活火山であることに留意)]**

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

以前から熱活動が活発な立山地獄谷では、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

#### **おんたけさん 御嶽山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

20 日 04 時 54 分から継続時間約 3 分の火山性微動が発生した。火山性微動が観測されたのは 2014 年 11 月 23 日以来である。この火山性微動の発生に伴い、傾斜計<sup>4)</sup> にわずかな山側（北西）上がりの変化が観測された。火山性微動の発生時の遠望カメラによる噴煙の状況は、視界不良のため確認できなかったが、空振計の観測データに特段の変化はみられなかった。この火山性微動の発生直後を含め、19 日から 20 日にかけて、火山性地震が 38 回（19 日 12 回、20 日 26 回）と一時的に増加した。それ以外の期間は少ない状態で経過している。火山性地震の日回数が、20 回を超えたのは 2015 年 2 月 14 日（22 回）以来である。また、31 日 04 時 58 分には規模の大きな火山性地震が発生した。このほか、低周波地震を 19 日及び 20 日にそれぞれ 1 回観測した（6 月は 5 回）。これらの地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていない。

御嶽山では、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。

一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>1)</sup> に注意が必要である。

#### **ふじさん 富士山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]**

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

#### **はこねやま 箱根山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]**

箱根山の火山活動は活発な状態で経過している。7 月 1 日 05 時頃に遠望カメラにわずかに火山灰の付着が認められたことから、6 月 30 日から 7 月 1 日にかけて大涌谷でごく小規模な噴火が発生したとみられる。

7 月 2 日以降、気象庁機動観測班（JMA-MOT）が実施している現地調査及び大涌谷に設置している遠望カメラによる観測では、15-1 火口や噴気孔、その周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き蒸気が勢いよく噴出しているのを確認した。また、これまで実施してきた現地調査で、6 月 29 日以降に確認した 15-1 火口や 15-2、15-3、15-4 各噴気孔以外にも新たに噴気孔を確認したが、大涌谷全体の状況としては、大きな変化はみられない。

国土地理院の GNSS<sup>3)</sup> 連続観測によると、箱根山周辺の基線で 4 月から山体の膨張を示す地殻変動がみられる。6 月以降は一部の基線で伸びの速度がやや低下したものの、引き続き山体の膨張を示す地殻変動がみられている。

7 月に入ってから火山性地震は減少しており、やや少ない状態で経過している。低周波地震及び火山性微動は観測されていない。

今後も小規模な噴火が発生する可能性があるため、大涌谷周辺の概ね 1 km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。また、風下側では火山灰や小さな噴石<sup>1)</sup> が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

### 伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態で経過している。

GNSS<sup>3)</sup> 連続観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

### 三宅島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過している。火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過している。

火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、山頂火口内及び主火孔から 500 m 以内では火山灰噴出に警戒が必要である。また、火山ガスの放出が継続していることから、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では警戒が必要である。

### 西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。

2 日、21 日、24 日に第三管区海上保安本部が、31 日に海上保安庁が上空からの観測を実施した。

24 日の観測では、第 7 火口からの噴煙の放出が続いているもののこれまでのような爆発を伴う噴火はほとんど認められず噴煙の量も少なくなっていた。火砕丘東側斜面から流出した溶岩は、東方向に流れて海岸に達し、海岸付近では白煙が上がっていた。西之島周囲の海岸線には、青白色の変色水が、幅約 100～1,000m で分布していた。

31 日の観測では、第 7 火口内の北側に新たな火口が形成され、第 7 火口は拡大していた。

西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある断層やクラックは認められない。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。

また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> や水面を高速で広がるベースサージ<sup>5)</sup> 等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね 4 km 以内の範囲で

は噴火に警戒が必要である。

### 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。GNSS<sup>3)</sup> 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年 3 月頃から隆起速度が上がっている。その他の観測データに特段の異常は認められない。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

### 福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

白山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

## 【九州地方及び南西諸島】

### 九重山くじゅうざん [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS<sup>3)</sup> 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

### 阿蘇山あそざん [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、今期間、噴火は観測されなかった。

火山性微動の振幅は概ね大きな状態であったが、14 日から小さくなっている。孤立型微動は多い状態で経過している。火山性地震は時々発生している。

期間中に火口縁の南側で実施した現地調査では、中岳第一火口内の 141 火孔<sup>6)</sup> から白色の噴煙が上がり、141 火孔<sup>6)</sup> 内の一部に湯だまりを確認した。23 日以降は、湯だまり内にごく小規模な土砂噴出を確認した。赤外熱映像装置<sup>2)</sup> による観測では、湯だまりの最高温度は約 80～90℃と高い状態であった。

31 日には、141 火孔<sup>6)</sup> の南西側に高温の噴気孔を確認し、噴気孔の温度は約 600℃と高い状態であった。

二氧化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,200～1,800 トンと多い状態であった。

中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな噴石<sup>1)</sup> が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>1)</sup> にも注意が必要である。

### 雲仙岳うんぜんだけ [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

### 霧島山きりしまやま（新燃岳しんもえだけ） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々発生した。

GNSS<sup>3)</sup> 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの

膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向が見られていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>1)</sup> に注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

### 霧島山きりしまやま（えびの高原えびのこうげん（硫黄山いおうやま）周辺しゅうへん） [噴火予報（活火山であることに留意）]

火山性地震が 5 日と 26 日に増加した。

26 日 09 時 23 分に継続時間が約 2 分 30 秒の火山性微動が発生した。この周辺で火山性微動が発生したのは 2014 年 8 月 20 日以来である。火山性微動の発生に伴い傾斜計<sup>4)</sup> で硫黄山の北西が隆起するような変動が観測された。

6 日、27 日、28 日に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められず、地表面の変化も認められなかった。また、全磁力繰り返し観測でも、地下の熱活動の高まりは認められなかった。

えびの高原（硫黄山）周辺は活火山であることに留意が必要である。

### 桜島さくらじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が 14 回発生するなど、噴火活動が継続した。

南岳山頂火口では、16 日に有色噴煙が火口縁上 200m まで上昇するごく小規模な噴火が発生した。

桜島では、これまでの地殻変動観測から、山体が膨張した状態となっている。GNSS<sup>3)</sup> 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013 年 6 月頃から停滞していたが、2015 年 1 月から伸びの傾向がみられる。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup> 及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>1)</sup>（火山れき<sup>7)</sup>）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

まつまいおうじま

### 薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では火山ガスに注意が必要である。

くちのえらぶじま

### 口永良部島 [噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）及び火山現象に関する海上警報]

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続している。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していないが、火山性地震が時々多く発生した。火山性微動は観測されていない。火山ガスはやや多い状態で経過している。

24日に九州地方整備局の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、新岳火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。

7日に産業技術総合研究所、18日、29日に、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり500～700トン（6月800～1,700トン）とやや多い状態であった。

今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性がある。大きな噴石<sup>1)</sup>の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>1)</sup>が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

新岳火口から半径2海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがあるので、噴火に警戒が必要である。

すわのせじま

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口では、30日と31日に小規模な噴火が発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が、最高で

火口縁上1,300m（6月：噴火なし）まで上がった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、31日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が観測された。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>1)</sup>が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

きりしまやま おほち

霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 3) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 4) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 5) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象。人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険である。
- 6) 阿蘇山では、火口内の火山灰や噴石を噴出する孔を火孔と呼んでいる。火山活動に伴い、火孔の位置が変わったり、同時に複数個の火孔が開いたりしたことがあり、明瞭に区別するために、141火孔のように西暦の下2桁と通し番号で命名している。
- 7) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

表 2 平成 27 年 7 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
口永良部島	噴火警報 (噴火警戒レベル 5、避難)	解説情報 第 114 号～175 号	1 日～31 日 10 時 00 分 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
箱根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報 第 63 号～93 号	1 日～20 日、 22 日～31 日 16 時 00 分 21 日 16 時 25 分	噴気・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
		火山活動解説資料	2 日 17 時 00 分	2 日に実施した現地調査の状況。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報第 55 号～63 号	3 日、6 日、10 日、 13 日、17 日、21 日、 24 日、27 日、31 日 16 時 00 分	爆発的噴火による大きな噴石の飛散状況。傾斜計・伸縮計・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
雌阿寒岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	火山活動解説資料	14 日 16 時 30 分	13 日から増加した火山性地震の状況。
		解説情報第 1 号	27 日 10 時 30 分	26 日から増加した火山性地震の状況。現地調査の予定。
		火山活動解説資料	27 日 15 時 30 分	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火口周辺警報	28 日 16 時 00 分	火山性地震の増加。現地調査等で地熱域の拡大、噴煙の勢いの増加を確認。ごく小さな噴火が発生する可能性があることから、噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）に引上げ。
火山活動解説資料		28 日 17 時 30 分		
解説情報 第 2 号～4 号		29 日～31 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。	
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 37 号～40 号	6 日、13 日、21 日、 27 日 16 時 00 分	噴気・地殻変動・地震回数等火山活動の状況。
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 29 号～33 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	地殻変動・地震回数等火山活動の状況。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 27 号～57 号	1 日～31 日 16 時 00 分	噴煙・火山性地震・火山性微動等火山活動の状況。二酸化硫黄の放出量の状況。
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 67 号～72 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分 31 日 18 時 20 分	噴煙・火山性地震・火山性微動等火山活動の状況。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 52 号～60 号	3 日、6 日、10 日、 13 日、17 日、21 日、 24 日、27 日、31 日 16 時 00 分	噴煙・火山性微動等の火山活動の状況。現地調査の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	降灰予報（速報）	31 日 18 時 27 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	31 日 18 時 48 分	噴火発生から 6 時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	火山活動解説資料	14 日 11 時 30 分	13 日から増加した火山性地震の状況。
霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	噴火予報 (活火山であることに留意)	解説情報 第 34 号、35 号	6 日 11 時 10 分 16 時 40 分	5 日に増加した火山性地震の状況。現地調査の状況。
		解説情報 第 36 号～38 号	26 日 15 時 10 分 27 日 11 時 40 分	26 日に増加した火山性地震、26 日 09 時 23 分頃に発生した火山性微動等火山活動の状況。現地調査の状況。
			28 日 16 時 00 分	

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。阿蘇山、桜島、諏訪之瀬島、口永良部島においては、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。